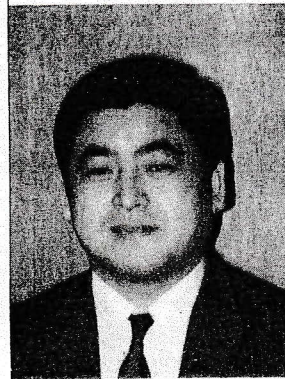


同窓生シリーズ

(23)



第21回生 青木 豊氏

昭和26年 渋谷区笹塚生まれ
昭和44年 本校卒業
東京大学法学部卒業
労働省に入り、労働大臣秘書官、
労働省地域雇用対策室長を経て、
現在、熊本県総務部長となる

白球を追いかけて汗を流した部活

当時、硬式野球部は、地味な印象が強かったです。運動場の隅っこで筋肉トレーニングなどの基礎練習が多かったし、せっかくなのでユニホームも、思い切ったプレーができるようにと、水たまりにスライディングして泥まみれにするといった調子でしたから……。

第一グラウンドで、さつそうと練習する男子バレー部がうらやましかったですよ。

硬式野球部は、我々の頃も強かったんですが、

今年はベスト8になったそう。頼もしいですね。クラブ活動に夢中になり、成績の方はダ・ダ・グーッと下がる一方でした。これは後輩に真似して欲しくないですよ。

子供の間から育くまれた信念

子供の頃から育くまれた信念

渋谷区の笹塚で生まれました。体は小さかったのですが、たいへんなワンパクだったようです。

「あなたが小さな頃は、ご近所に頭を下げっぱなしだった」と母が今も苦笑いしますからね。

三つ子の魂といいますが、小さな頃から、信念

を貫く気持ちで強かったのだと思います。中学時代は生徒会長として、あるいは将棋部をつくる事などで、先生方ともずいぶんやり合った思い出があります。この頃が一番楽しかったですよ。

高校時代の三年間は、部活と議論にあぐらをかいていました。

結局、高校入学四年目真剣に勉強しまして、東京大学法学部に入学しました。

当時、あの安田講堂の騒ぎから一年が経っていました。入学時のオリエンテーションの折、担任の教授が、ヘルメットの姿の先輩たちに糾弾される事態になったんです。

その時は、ムラムラと生来の気性が頭をもたげて、思わず「先生に向か

って、オマエとは何事ですか。自分たちの主張のために、平気で他人の話を遮るとは何ですか。そんな事をする人たちの話には聞けません」と意見していました。この一件ですっかりクラスの有名人になってしまいました。

偶然が重なって今、私は熊本で

何か社会の役に立つ仕事を担いたいと思っていました。迷うことなく労働省を選びました。役所では、時代に合わせた法案を作り、それに予算をつけていかなければなりません。その作業をしている時は、他省との折衝、関係業界との話し合いもあります。在任中、十一回の法律改正の仕事をしました。この間は、十二時前に家に帰ることは、ほとんどない生活が続きました。

労働大臣秘書官を任

内閣、海部内閣の時やらせていただきましたが、細川さんの後、その大臣が熊本県知事となり、以前私が県庁に意向していたこともあり、請われて再度熊本県に奉職することになったのです。

今、三年目になります。が、総務部長という仕事は非常に多岐にわたっております。

例えば県庁の人事、県の財政予算、国際渉外関係、マスコミへの広報関係、県議会との調整、市町村指導、選挙事務、災害時の指揮、消防、防災、私立学校への補助等々。目まぐるしい日々を送っています。

未来を担う新宿校生に望むこと

まず、しっかりと勉強すること。二番目に、新宿高校に誇りをもって生活してもらいたいと思います。人の話を鵜呑みにし

ているようでは、誠にさみしい話ですから。伸びやかに主張し、「自分」を確立して行動してほしいですね。もちろん、人に対する礼儀感謝の念をわきまえていうことです。

青木氏には、出張の忙しい時間を割いて新宿高校においていただきました。

当時の先生の事や、グループで議論を交した日々の事などの思い出話を沢山お聴きしました。

内に確固たる信念を持ち、「言いたいことを言う」という姿勢を若い頃から貫き、いつも夢を持ち続けて、バリバリと仕事をなさっている青木氏のお話を伺っていると、何よりも仕事を楽しんでいる様子が伝わってまいります。